



作ってみませんか あなたの夢をまとった 素敵な素敵なペーパードール

小峰善枝さん
(ペーパードール制作者)



「この人形のドレスはお菓子の包み紙、そしてこちらは懐石料理を食べに行ったときのランチマットを集めて作ったのよ。熱心に聞き入る受講者に、華やかに生まれ変わった紙の元の姿を説明しているのは、東三ツ木在住の小峰善枝さん。独自にペーパードールの作り方を考案し、ボランティアで市内の福祉の店、ショップ、みちくさで教えています。」

小峰さんがペーパードールを作り始めたのは、勤務している老人福祉施設で、ある利用者と親しくなりたと思ったことがきっかけでした。毎日折り紙を折り続けている寡黙な女性が何となく気になり、何とか共通の話題を、と思い試行錯誤して作ったのが、自宅に眠っていた包装紙

とっておきの和紙で作った和装のペーパードールに、同じ和紙を使った対の洋装の人形を作るなど、小峰さん自身が楽しんでいることが伝わってきます。「こうやって2つ並べると、1体だけよりも良い雰囲気ね。この子たちはお気に入りの人形なんです。」と、うれしそうに眺めます。カレンダーやお菓子の包装紙からできているなんて信じられないほどの出来栄です。



好みのドレスを着せる作業が一番楽しそうで、目が輝いています。

や紙ナプキンなどを利用した世界でただ一つのペーパードールでした。それとなくその人形を窓口に置くと、その女性から、作り方を教えて欲しいと言われたのです。人形を介して会話が生まれたときはうれしかったですね。」と振り返ります。それから小峰さんは、より手軽で見栄えの良い作り方を探しく、さまざまな工夫を凝らして人形を作り続けてきました。ペーパードールの作り方は、改良を重ね生まれ出された小峰さんのオリジナルなのです。

人形のボディはカレンダーで作り、ドレスや帽子、小物などはあり合わせの紙や不織布、リボンを使います。「用意するのはポンドや竹串などで材料費はほとんどかからないし、お子さんから高齢のかたまでどなたにも簡単に作れるのがペーパードールです。ペーパードールに夢中になつてから、破いたカレンダーを捨てられなくなり、紙ナプキンの切れ端でさえ、柄の部分を帽子に使おう。」なんて考えて、大事にとつて

おくよつになつたんですよ。」と、徹底した紙のリサイクル術を話してくださいます。

また、ペーパードールの魅力は手軽にできることだけではありません。一番楽しいのは、ドレスや帽子などを着せる作業、イヤリングなどふだん着けないから、お人形には着けたいわ。「こんな大きな帽子、自分ではかぶれないけど、人形ならこれくらい派手なのも良いわよね。」と、自分の好みや憧れを人形に託し、まるでデザイナーのような熱の入れようです。小峰さんも、ドレスや帽子の作り方は私が教えますが、作る人の好みがありますので、スタイルは個性を尊重しています。皆さんとてもこだわって作っていますよ。」と優しく見守ります。私はプロの技術は持っていないからポランテアで皆さんにお教えしています。ペーパードールの作り方をたくさんの人に伝え、楽しんでいただけたことが一番うれしいんです。」と、小峰さん自身がコミュニケーションを楽しんでいる様子です。そして、私が今後作ってみたいのは、動きのある人形。人形自体は動かないけれど、ドレスやショールを羽織った腕などで動きを表現できたらいいな、と思います。」と、小峰さん自身の目標も。

これからも、夢をまとった素敵なペーパードールが生まれ続けることでしょう。

家にこもっていないで 子どもと一緒にリフレッシュ ワイワイ広場に出かけませんか



ワイワイ広場は水曜日と金曜日に公園や保育所で行っています。開催日と会場は、毎月25日に発行される、広報さやまの「保育情報あれこれ」のコーナーに掲載していますので、皆さんぜひ遊びに行ってみてください。

育児をしていると、子育ての情報が手に入りすぎて、「うちの子の発育状況はどうなのかしら、ちょっと心配だわ。」「どうやって遊ばせたらいいのかしら。」などと思っているお母さんがいらっしゃるのではないのでしょうか。私にも1歳8か月の子どもがいますが、初めての子育てに不安を感じることがあります。今日は、家で子育てしているお母さんにおすすめの「ワイワイ広場」をご紹介します。私がおじゃましたのは柏原の河川敷にある児童公園。担当している乳幼児情報センターの保育士さんはシートを敷いて親子を迎えてくれます。広場の始まる10時30分ごろには、自転車やベビーカーに子どもを乗せてお母さんたちが集まって

• 問い合わせ乳幼児情報センターへ
☎ 958-1155

1時間ほどのワイワイ広場ですが、とても楽しい雰囲気でお母さんも子どももリフレッシュできると思います。私もまた来てみたいと思いました。

ときには公園に遊びに来ている近所のおばあちゃんが、自分の経験から子育てのコツを教えてください、お孫さんの話をしてくれたり、自然にコミュニケーションの輪が広がっているそうです。私も実際に参加してみても、他のお母さんと情報交換もできますし、子ども同士遊んでいるのを見ていて、同じ年齢の子でも発育には個人差があつて当然なんだと

育児をしていると、子育ての情報が手に入りすぎて、「うちの子の発育状況はどうなのかしら、ちょっと心配だわ。」「どうやって遊ばせたらいいのかしら。」などと思っているお母さんがいらっしゃるのではないのでしょうか。私にも1歳8か月の子どもがいますが、初めての子育てに不安を感じることがあります。今日は、家で子育てしているお母さんにおすすめの「ワイワイ広場」をご紹介します。私がおじゃましたのは柏原の河川敷にある児童公園。担当している乳幼児情報センターの保育士さんはシートを敷いて親子を迎えてくれます。広場の始まる10時30分ごろには、自転車やベビーカーに子どもを乗せてお母さんたちが集まって

きます。保育士さんが皆さん、こんにちは。ワイワイ広場によろこそ。」「今日も来てくれたの、みんなで元気に遊ぼうね。」と声をかけ、パネルシアターが始まりました。見ていると、保育士さんの演じるパネルシアターや手遊びを一緒に楽しむ子どもや公園のすべり台や砂場で遊ぶ子どもなど、みんな自由に自分のペースで楽しんでいます。

ワイワイ広場の目的を、乳幼児情報センターの矢島所長さんに伺いました。最近は核家族化や近所づきあいが少ないなど、母親が一人で子育てをしている家庭も増え、育児の知恵がほしいけれど教えてくれる人がいなかったり、公園に行ってもお母さん同士、話をしづらいことが多いそうです。そんなお母さんの悩みや育児の不安を少しでも解消するため、職員が保育所や公園に出向いて親子で遊びながら子育てや発育に関する相談を受けたり、母親同士や地域の人たちと交流してもらう「子育て支援事業」の一つなのだそうです。



ワイワイ広場は保育所でも開催しています。一緒に手遊びをしながら、お母さんに園児たちの生き生きとした表情を見てもらうのも、この事業の目的の一つです。

REPORTER'S EYE

ワイワイ広場



【リポーター】

小松理恵さん(入間川在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、読者がレポートします。